

## Café

カフェの話 7  
ロック喫茶 yago

1971年、街にはまだ闘争の名残りが残っていた。  
夕暮れ時、ガタガタ走る路面電車に乗り込み、四つ先の停車場で降りる。足の向くその店は、うらぶれたキャバレーが並ぶ小さな町の片隅にある。廃屋のようなビルの薄暗い階段を地下へ降りると店はあった。中に入ると、爆音のような音の衝撃と暗闇に立ち尽くす。数秒間まるで何も見えないし、この怒涛のような音が一体何を意味しているのかも分からない。目が闇に慣れて来て店の中がぼんやりと見えてくると、音の意味を判別することができる。今日一枚目は、アリス・クーパーの「フィルモア・イースト」好きなレコードだ。狭い店の天井は高く高い。店の二分の一ぐらいが鉄骨で組まれた中二階になっている。その階下の部分は天井が低く、腰をかかめて入り込むとちょっと出る気がしない。私は鉄骨の急な階段を上り、中二階の一番奥に座る。いつもの湿っぽい冷たさ。赤いホーローのカップに薄いコーヒーが並々と注がれ運ばれてくる。180円。少し高いけれど一日いても文句は言われない。鉄の手すりに顎をのっけて、煙草に煙った店の中を見渡すと、あちこちの隅に見慣れた顔がある。黒いドレスの女主人も見えた。皆それぞれ自分の場所にもぐり込んで音に埋ずもれている。ロックの壁に塗りたくった土壁のかび臭さが鼻をつく。落書きだらけの土壁がこれ以上落書き出来ない程駄目になったら、店を閉めるという噂だった。今のこの場のこの時は、長くは続かないという空気を、黒装束の女主人を始め、誰もが口には出さなくとも同時に感じていた。その奇妙な感觸の連帯感が、日常の置き所のない気持ちと和らげてくれた。夏場は天井から吊り下げられた大型の冷房機が埃っぽい冷気を轟々と噴出して寒いくらいだったが、冬になると、天井の高い部屋の真ん中に小さな石油ストーブがたった一つあるきりで、誰もがコートにくるまって音楽に浸っていた。

1972年、店は突然閉められた。当時、日本じゅうにあったロック喫茶も、次第に消えていった。



## ミルクホール 特別ライブ

## 満月の夜

満月の夜です。  
世界中の人々が、空を見上げれば真ん丸のお月様を見られる晩です。  
満月の夜には、不思議な魔力があるのです。魔法にかけられた夜に奏でられる音色は、美しく、侘びしく、そして、いつかしら、心浮き立つ調べとなって、聞かせるものの心のうちに、優しく語りかけてきます。  
演奏は、琵琶の、音にならない静かな響きから始まり、尺八の低く重い音に引き継がれ、歌い、奏で、響き、鳴る……  
ミルクホールの魔法の夕べを、どうぞ、ご一緒に。

## 琵琶と尺八の夕べ

6月7日 満月の夜 7時半より  
ミルクホールにて

## COLUMN

鎌倉の猫事情 第八十五話



皆様、お久しぶりです。  
こうして、見渡してみますと、まだお目通りのない方々も、たくさんいらっしゃるようですので、改めて自己紹介させていただきます。私、この家の先代猫のシュガーと申します。  
もうかれこれ十年ばかりも前に、この世を去り、その折、長年暮らしていたこの家にも別れを告げたのでございますが、あの世は、平和ではありますが、少々退屈する事もございまして、時折昔なじみのこの家を懐かしんで覗きに参っておりますのでございます。世間では、草葉の陰から……などと申しますが、草葉とはどこにあるやら、猫の私にはとんとわかりませんもので、勝手知ったる屋根伝いに、覗きに参っている次第でございます。ところが、こっそり現れるつもりで先夜も屋根を歩いておりましたら、屋根がぐびて、あの世の私の体重を支えるのさおぼつかない有様で、ミシッ、ミシッと足音を立ててしまったのでございますよ、丁度その折、夜遅く帰ってきた女主人にその足音を聞かれてしまいまして、女主人は猫が屋根を歩いている音がするものですから、てっきり、自分の家の猫が迎えに来たと思い込んで、ひとしきりグーニーちゃんやら、スィーピーちゃんやらの

名前を屋根に向かって叫んでいました。けれど、音はすれども姿は見えずで、不思議そうな顔をして部屋に帰って行きました。すると、部屋には、ちゃっかり、グーニーもスィーピーも思い思いの場所で、丸くなって寝ておりましたので、ますます不思議そうに首をかしげておりました。まあ、それにしても、ほんの蚊トボほどの体重のあの世の猫の私が歩いて屋根がきしむくらいですから、この家もさうとうオンボロになってきたのでしょうか。なんだか本当に心配になってしまいまして、しばらくこの辺りをうろろしていたという訳でございます。  
私は、生涯独身を通したものですけれど、人見知りなどはしない性質でしたので、あちこち猫好きの家で良くして貰っては気ままに渡り歩き、そこらじゅうの庇で昼寝したり、家々の縁の下にもぐっては、うんちをしてみたり、ネズミを追っかけたり、中々に楽しい生涯を送り、最後に、自分の死に場所をこの家と心得、帰ってきました。息を引き取るときは、燃え尽きた……と思い、私に限って、化けて出る……世間では、化け猫なんて失礼な事仰います……そんな未練がましいことなどないと思つたのですけれど、ところが近頃、妙に色々気になって、温暖化だとかで、気候もねえ……皆様、本当にお変わりありませんでしょうか？  
to be continued



2009 Milk Hall

# ANTIQUES BAZAAR

2009年、ミルクホールでは毎月一度、テーマを決めて  
ガラクタ・アンティーク・骨董の催事を開催いたします。

## 骨董通信

骨董をテーマに・・・

骨董屋さんの、骨董品

骨董屋さんの骨董品は、なんだかよくわかりません。  
ある店では、小さな店の小さなウインドウに一個だけ、小さな小さな壺が、置いてあったりして、お店がたった一つだけ売っているのだから、これは凄いものなんだろうと、感心して見入ってしまいますが、どんなに見ても、何がそんなに凄いかちっともわかりません。そうかと思えば、あちこちの棚が崩れ落ちそうな程、所狭しと、ものがあふれているお店もあります。それはそれで、なんだか、本当の骨董屋さんという感じもします。どちらも、博物館と違い、親切な説明書は無し、ぶっきらぼうな値札がついているだけです。値札がついていればいい方で、何もしない！ たまに、奥の方に誰かいるのかなと、覗いてみると、鋭い目つきのオヤジが、こちらを値踏みでもするようにじっと睨んでいたりして・・・悪気は無いのですが、物も人も、目利きをする悪い癖があるんです。

SAMURAI



## 茶の湯

骨董屋さんの骨董品には、大抵証拠がありません。たまに、箱書きだの、銘だのというものもありますが、それこそ怪しい事もあります。鑑定書が無いのが、骨董屋さんの骨董品です。店主はただひたすら、自分の経験と知識と心に問いかけて、物を見て仕入れをし、守っています。長年沢山のものを見て、経験を積み、世の中の裏の裏まで見てきたような誇り高い骨董屋さんは、口にはしなくとも自分こそ鑑定書だと思っています。そんな凄いお店も、そうでないお店もあるのが、骨董の世界です。気に入ったものがあるお店があったら、思い切って、「これは、なんですか？」って、聞いてみて下さい。新しい世界が広がるかもしれませんよ。



次回の蚤の市は、 6月 13日(土) きもの市  
14日(日) 夏の装いの準備に・・・  
単衣・ゆかた・半幅帯

★毎週火曜日は 着物の日です

ミルクホールの BAR TIME  
ライブでお楽しみ下さい。

# 5/16 Sat. by HALF MOON

19:30~

琢磨 仁  
琢磨 啓子

ハーフムーンは、  
愛と平和を歌います。



# 6/7 Sun.

19:30~

## 琵琶と尺八の夕べ

日本古来の侘しい音色と、JAZZの魂が  
ミルクホールで出会いました。  
満月の夜の幻想に  
目を閉じ、  
耳を傾けて お聴きください・・・

琵琶・馬場鶴生  
語り・パーカッション他  
尺八・榎本秀水  
フルート・テナーサックス・唄



## Information

ミルクホールタイムス 総集編 ¥1800

### 「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールタイムスを1976年の創刊号より、100号まで  
人気連載中の「鎌倉の猫事情」を第一話より掲載いたします。

### ミルクホールタイムス定期購読募集

年間購読料 ¥150

248-0006

鎌倉市小町 2-3-8

PHONE 0467 22 1179

FAX 05034882872

meil

inf milkhall.co.jp



ミルクホール 骨董・ガラクタ市

# 蚤の市

5月の蚤の市のテーマは、骨董です

5/9 Sat. 10 Sun. 朝11時 OPEN!

ミルクホールのアンティークは  
明治・大正時代の日本のものを中心に、昔の日本の暮らしの中に、  
生きていたものを、使いやすく、買いやすい価格で揃えています。  
古い家具や、器、道具、着物・・・昔の人達の温かみが感じられます。  
沢山の古道具の中に、意外な掘り出し物も・・・探してみてください。

**蚤の市 入荷予定** 伊万里・古陶磁  
和洋家具  
李朝のすり鉢・こね鉢 色々  
明治時代の小さめの水屋箆筒 古民芸  
大正時代ガラス水屋 大小色々 アンティーク

➡ ミルクホールの骨董・伊万里 二割~三割引き  
今月限りのSALEです。

高麗・李朝の碗・壺 アフガン石仏  
道教壁画(部分) 漢時代瓦・新羅高杯 など

## ♠ 和洋家具

大正時代ガラス水屋 2段  
カウンターテーブル ミシン脚  
明治・大正時代小箆筒各種  
明治時代衝立・昭和初期衝立  
大正時代ガラスケース各種  
明治~昭和文机各種  
裁縫台各種



## ♥ 古民芸

御簾 一對  
大正時代鏡台  
漆お椀・茶托・御膳  
明治道具箱・樽など  
糸巻き・大小  
作業台各種 行灯

## ◆ アンティーク

➡ Victorola 蓄音機 2台  
昭和ガラス窓  
明治乳白ガラスシェード  
照明スタンド各種  
額絵・ポスター各種

## KAMAKURA

場所の記憶 35

# HISTORY

ミルクホールのルーツ 21

野にも山にも春が来て、本当に美しい季節です。  
この季節になると、毎年竹の子山へ連れて行ってくれた伊豆  
の葦山の叔父さんの事を思い出します。伊豆と鎌倉は、鎌倉  
時代から深い繋がりがありますが、私たちも随分と行き来しま  
した。今では、古い世代の人達が亡くなって、繋がりが薄くな  
ってきています。

ミルクホールのルーツは、過去と現在を行きつ戻りつ、21回  
目となりました。自分の目、耳に、残る記憶を糸口に色々な方  
からお話を伺い、調べたり、想像したりしながら進めています。  
ミルクホールのルーツを遡っていくと、安政3年に新潟で生ま  
れた、磯見わかという生涯独身で暮らした女性であることが、  
わかっています。その女性は20代を東京で暮らし、そこで養  
女となり磯見の姓になり、その後、鎌倉に移り「磯見旅館」を  
建てました。そこで夫婦養子を取り、跡継ぎにしたのです。

磯見わかという女性に始まった、ミルクホールのルーツを、  
辿っていくうちに、まるで無縁だった100年以上も前の遠い昔  
の人達のことが、人間らしい息遣いで感じられるようになってき  
ました。手探りで行きつ、戻りつですが、もう少しこのお話を続け  
て行きたいと思っています。

次号へ続く

## ♣ 古陶磁

伊万里ALL二割引き  
明治平戸染付け小鉢  
明治錦絵五寸皿  
明治錦絵向付け  
大正色絵向付け・皿各種  
古伊万里豆皿・なます  
明治瀬戸石皿・鉢  
江戸未なます皿

## 古布・古裂

### ✂ 半衿・帯揚げ

無地の半衿 ¥500より  
銘仙・絞りなど ¥800より

### ✂ 帯締め ¥800より

### ✂ 着物 ✂ 帯

